

シェムリアップ Moi Moi ライフ

ISSUE
121

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくり」との意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出 陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年～2020年、シェムリアップにてレストラン Cafe Moi Moi を経営。2005年 JST (NGO: アンコール人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年“アンコールの都の西北”に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒1,000人の学校運営を行っている。

● JST ホームページ
<http://www.jst-cambodia.net>

学校閉鎖中の生徒たちの学習 は、いかに？

コロナ禍で2年弱続いた学校閉鎖中、バイヨン高校では、テレグラムのチャット機能を使った授業のライブ配信と、プリントによる家庭学習が行われていました。閉校中、生徒たちは自宅でのように勉強を行っていたのでしょうか？ その実態を把握するため、Google フォームでアンケートを作成し、高校生323名にスマートフォンで答えてもらいました。

コロナ前のスマホ所持者はクラスに5人いるかいないか程度でしたが、閉校中の授業受信にスマホが必要になり、現在も学校からの連絡はテレグラムで配信されるため、コロナ以降、スマホは学校生活に欠かせないものとなっています（なお、自宅にパソコンがある生徒はいません）。

結果は非常に興味深く、大部分の生徒は家事手伝いの時間が大幅に増え、勉強時間は毎日1～2時間程度しかなかったことがわかりました。しかも、家の中ではネットが繋がらず、田んぼの真ん中に出て授業を受けていた生徒、そのうちに



スマホで回答! Googleフォームアンケート

勉強をあきらめてしまった生徒もいました。スマホを持っていない生徒は、友達とのスマホと一緒に勉強していたのですが、ネット接続の悪さだけでなく画面も小さいため、理解度は大多数が5割に満たず、プリント学習の理解度の方が高いという結果になりました。

家庭での学習は非常に困難だったことがわかりましたが、プラス点を挙げるとすれば、生徒と教師がスマホの操作に慣れ親しんだことでしょうか。定期テストはGoogleフォームのテスト作成機能を使って作成され、生徒たちはスマホで在宅回答していたため、現在では全校生徒がGoogleフォームでのアンケートにも容易に回答し、様々なアプリを使いこなしています。テスト結果の集計も効率化、視覚化され、分析も容易になりました。

とはいっても、家庭での学習はもう二度とやりたくない。毎日学校に登校でき、先生や友達に会える今の生活が一番楽しい! ...これが生徒たちの本音でした。